

(様式6-2)

研究成果概要

所属学校名 伊賀市立上野東小学校

職・名前 教諭 渡邊 あづさ

- 1 事業の名称 一般内地留学
- 2 留学先の名称 大阪教育大学
- 3 研究主題 協働による教科指導型日本語指導の授業づくり
- 4 研究成果の概要

私は平成27年4月1日から平成28年3月31日まで、大阪教育大学で「外国人児童生徒教育」について研究を深めた。

研修当初、私が抱いていた課題意識は、次の4点である。

- ① 教科指導型日本語指導の考え方を取り入れた授業をどうつくるか。
- ② 日本語教室に通う子どもだけでなく、学級で学習するすべての子どもにとっての「わかりやすい授業」をどうつくるか。
- ③ 外国にかかわる子どもたちを学級の中でどう位置づかせていくか。
- ④ 日本語学級と学級との役割分担と職員間の連携など、学校としての支援体制をどうつくるか。

課題解決の糸口をつかむために、一学期を中心に他校を訪問し、それぞれの学校での取り組みを参観した。訪問したのは、伊賀市内の小学校5校、中学校3校、松阪市内の小学校3校、中学校1校、いなべ市内の小学校1校、神戸市内の小学校1校である。訪問先では、教科指導型日本語指導の授業を参観したり、担当者会議や校内研修に参加させていただいたり、管理職・学級担任・日本語教室担当者の先生方からお話をうかがった。それぞれの学校により実践と成果があり、同時に課題や悩みがあることがわかった。各校に見られる課題や悩みについては、私の所属校が抱えるものとも重なっており、長期的に取り組んでいく必要があると感じた。

二学期は、他校の訪問から学んだことを生かし、所属校である上野東小学校の日本語教室（なかよし教室）で、3年生算数科の研究授業を行った。なかよし教室の担当者や学年の先生方の理解と協力もあり、「みんなで授業をつくる」ことの大切さを実感することのできた研究授業であった。

また、なかよし教室担当者に「担当者として大切にしていることと学校内での役割」について話を聞くことができた。

上野東小学校のなかよし教室担当者が大切にしていることは、次の4点である。

- ① 外国につながる子どもたちの居場所はあくまでの学級であるという意識
- ② 日本人の子どもと同じ土俵に立てるように支援すること
- ③ すべての子どもを大切にすること
- ④ 柔軟性

なかよし教室で、「こうしよう」という明確なルールを設けているわけではないが、担当者全員が4つの原則を共有していることで、同じ方向を向いて取り組んでいることがわかった。

研究を通して学んだのは、

- ・教科指導型日本語指導は、外国につながる子どもだけでなく、すべての子どもにとって有効である。
- ・子どもをよりよく支援するには、教職員間の協力や連携が不可欠である。

ということである。なかよし教室に通う子どもたちは、持っている力がさまざまである。こうした子どもたちにとって「わかりやすい授業」は、同じように多様な子どもたちが在籍する学級でも「わかりやすい授業」になるはずである。また、日常的に教職員間で子どもに関する情報が共有され、協力体制がある学校は成果が大きいと、たくさんの学校を訪問して思った。

研修当初に抱いていた4つの課題がこの一年間で解消したわけではない。むしろ、現場に戻るこれからが出発点だと考えている。研修で学んだことを糧に、日々取り組んでいきたい。